

平成26年度 外科手術実績

2014年度も1年間に224例の手術を行い、うち32例は緊急手術でした。手術件数、内容はほぼ前年と同様で、1)鼠径ヘルニア72例、2)胆嚢結石症32例、3)急性虫垂炎手術28例で、これら3疾患で年間手術症例の約60%を占めています。胸腔鏡、腹腔鏡を用いた低侵襲鏡視下手術は60例、癌に対する手術は13例(大腸癌8例、胃癌4例、膵臓癌1例)でありました。

当科の特色は癌に対する高度な手術をしながら、良性疾患に対しても良質の手術を施行し、術後の退院日数が非常に短いことと、胸腔鏡下肺部分切除術や下肢静脈瘤手術、乳癌手術、痔核手術など幅が広いことです。

- (1)鼠径ヘルニア手術は、72例(うち3例は両側)に施行し、術式は前方アプローチで最も理にかなっているとされるダイレクト・クーゲル法を当科では第1選択としており68例(94%)に施行、また癒着等のためにそれを断念した4例にはプラグ・メッシュ法を施行しました。術後退院日数は、手術当日に退院した1例、術後2日目に退院した2例、嵌頓で緊急手術となった術後3日目に退院された1例、その他68例(94%)は術後1日目に軽快退院され、平均術後退院日数は1.0日です。
- (2)胆嚢結石症手術は、32例に施行し総胆管結石に対し手術を要した3例以外の29例全てに炎症を伴った緊急手術症例であってもまずは腹腔鏡手術を行いました。そのうちとくに炎症が著しかった1例のみ開腹移行しましたが、他28例(97%)は腹腔鏡下に胆嚢摘出施行しえています。開腹移行した1例も含めて全症例で副損傷、合併症をつくらず無事終了しており、これらの術後退院は開腹移行した1例は術後19日目でしたが、腹腔鏡下に完遂した28例では翌日退院が1人、3日目が4人、6日目が1人、ほか22人(79%)は術後2日目に退院されており、腹腔鏡術後の平均術後退院日数は2.3日です。
- (3)緊急手術となることが多い急性虫垂炎手術は、28例に施行し、術前に汎発性腹膜炎、麻痺性イレウスに陥っていた1例のみ開腹手術を施行しましたが、ほか27例(96%)は夜間であっても腹腔鏡下に手術を開始し、炎症の著しかった3例で途中開腹移行しましたが、ほか24例(89%)は腹腔鏡下に完遂しています。開腹移行した3例は術後12日～19日まで平均術後退院日数は15日を要しましたが、腹腔鏡下に完遂した24例では、3日目に退院された1人もいますが、手術翌日に退院された1人もおられ、ほか22人(92%)は術後2日目に軽快退院、腹腔鏡下に完遂できた24例の平均術後退院日数は2.0日です。

当科ではおよそ鼠径ヘルニアは手術の翌日、胆嚢結石症と急性虫垂炎は術後2日目に軽快退院されています。

手術実績一覧

幽門側胃切除(胃癌) 回盲部切除術(大腸癌) 結腸右半切除(大腸癌) S状結腸切除術(大腸癌) 人工肛門造設術 痔核手術(根治切除術) 腹腔鏡下虫垂切除術 腹腔鏡下胆嚢摘出術 胆嚢摘出、総胆管切開、Tチューブドレナージ 鼠径ヘルニア根治術(ダイレクト・クーゲル法、プラグ・メッシュ法) 大腿ヘルニア根治術 胸腔鏡下肺部分切除(VATS) CVポート挿入留置 皮膚、皮下腫瘍摘出	広範囲胃切除(幽門狭窄) 横行結腸切除(大腸癌) 結腸左半切除(大腸癌) 直腸切除(直腸癌) 人工肛門閉鎖術 直腸粘膜脱手術 開腹虫垂切除術 開腹胆嚢摘出術 腹壁癒痕ヘルニア手術 下肢静脈瘤手術(ストリッピング) 乳腺腫瘍摘出術 陥入爪根治術
---	--